

第3回山北町総合計画審議会 議事録

- 日 時 令和5年8月28日(月)14時00分から16時15分まで
- 場 所 山北町役場4階 401会議室
- 出席者 [委員] 前田会長、渡辺会長職務代理人、佐藤(直)委員、高杉委員、
佐藤(精)委員、松澤委員、福岡委員、鳥海委員、瀬戸委員、荻野委員、
山崎委員、有泉委員、坂本委員、池田委員、石田委員
[事務局] 参事兼企画総務課長、企画総務課担当職員
- 欠席者 曾我委員
- 配付資料 ・次 第
・資料1 第2回山北町総合計画審議会 議事録(案)
・資料2 山北町第5次総合計画後期基本計画 評価・検証結果への意見・質問
に対する回答【事業評価】【指標評価】
・資料3 各種アンケート調査等の結果への意見・質問に対する回答
・資料4 山北町第6次総合計画基本構想(素案)への意見・質問に対する回答
及び対応(案)
・資料5 山北町第6次総合計画基本構想(素案)

○会議概要

1 開会

ただ今から、第3回山北町総合計画審議会を開会します。本日、曾我委員におかれましては、都合により欠席とのことですので、ご報告いたします。

2 会長あいさつ

皆さんこんにちは。前回の会議後、委員の皆さんから多くの質問をいただき、それらに対して事務局の方で回答をまとめていただいております。本日はそれらを踏まえて、基本構想のある程度の方向性を固めて、次回会議からより細かい内容となる基本計画へとつながるような議論ができればと思いますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

3 議題

(1) 第2回審議会議事録の確認について(資料1により事務局より説明)

会 長: 1点修正をお願いしたい。4ページの下から4行目、「辞め」は、ひらがなとするか「止め」という字に修正していただきたい。

(2) 山北町第5次総合計画後期基本計画 評価・検証結果について(資料2により事務局説明)

委 員: 2ページの「公共下水道の整備」の「污水管路整備」について、污水管の補修は考えていないのか。

事務局: この先10年、下水道区域の変更がない限りは、整備予定はないとの回答となっている。

委 員: 今後、計画的な管路の改修が必要となってくるのではないか。

委 員: 必要な改修もあるはずである。総合計画を審議していくうえで、委員からの質問と事務局からの回答が資料のやり取りだけでよいのか疑問である。無責任な回答もあり、進め

方を考えるべきではないか。

事務局： 汚水管路の改修については、今、担当課に確認させていただく。

会 長： ある程度、町からの回答を信頼していただかないと収拾がつかないと思う。

委 員： 3ページの「山砂利採取跡地の有効活用」について回答はこれでよいのか。林野庁と県森林再生課、県政総合センターの森林部と調整した結果がこの回答なのか。

委 員： 山砂利については現在も採取中であり、採取後の土地利用については結論が出ていない。

委 員： そうだと思う。平地化事業計画の変更がどのようなものになるか出てきていないはずである。そのような状況が何年も続いている。回答にあるような簡単な問題ではない。

委 員： 採取後の土地利用については、国や県も含めた関係機関との調整が必要と考えている。

委 員： 広域幹線道路の整備についてもそうだが、職員が自分の考えのみで回答しているのは危険である。町長のしっかりとした考えが必要ではないか。

委 員： 山砂利採取後の土地利用については、調査・研究だけでよいかということも検討する必要がある。

委 員： 全てにおいて執行部の考えを職員へしっかりと浸透させなければならない。町長、副町長から課長に対して、責任ある回答をするよう徹底した指導が必要である。

会 長： 汚水管路の改修についてはどうか。

事務局： 管路は網羅されているため、新に下水道を整備する地域はない。古くなった管路の改修については、点検を実施していく中で改修の必要があれば随時行っていく考え方である。

委 員： 質問では現在ある汚水管のことを言っていると思う。町でも毎年チェックしているはずである。質問に対して回答ができていない。

委 員： 整備と維持管理は別の話であり、下水道計画区域の変更がなければ整備はしない。古くなれば必要に応じて改修するので、この資料で問題ないと思う。

会 長： 次回以降検討いただく基本計画はもっと細かな議論となるが、町では基本計画に書かれた業務しか行わないわけではなく、総合計画は町のすべての仕事が網羅されるものではないことを認識していただきたい。総合計画をもとに、その時々々の住民ニーズや様々な状況の変化に応じて、町長のもと、町で色々な取り組みを行っていくのは当然のことであり、その辺りをご理解いただきたい。

委 員： 無責任と思われても仕方ない回答も見受けられるので、町としてしっかりと取り組んでいきたい。

会 長： それでは、この資料は基本計画の議論の際、参考にして欲しい。

(3) 各種アンケート調査等の結果について（資料3により事務局説明）

委 員： 町はアンケート結果をどれくらい重要視しているのか。現計画へも反映していると思うが、現実的には進んでいないものが数多くあり、町の取り組む姿勢に問題があるのではないかと思う。今後、基本計画を策定していくにあたっては、位置付けていかなければならない事業がたくさんあると思うが、実施するかしないかを決めるのは町のシンクタンクである役場行政であり、町長から一般職員まで全ての力を結集して取り組む必要があると思うが、それが徹底できていないと感じる。資料のNo.4「交通手段・買物・医療

機関・山北駅前整備・商店街の活性化」は誰もが関心をもっている重要な問題であるが、議会が実施している「おしゃべり Café」で、山北町にどのような課題や問題があるのか聞いても答えられていない。アンケートを実施しても、全ての人々が本当の課題や問題を分かっているわけではないと思うので、アンケート結果が全てではないと考えている。交通手段について、町内循環バスの導入の経緯や、国・県の動向を踏まえて回答していないため、近隣自治体と話し合っていく程度の回答しか出てこないのではないかと。駅前の整備については「カフェニコ」を整備すればよいというものではなく、衰退している商店街をどうしていくかを考えなければならないのではないかと。基本計画にもっていくまでに、各課が徹底して進捗率の精査や課題の洗い出しなどを行わなければならないと思う。

- 委員： アンケートが全てかと言われると疑問な点はある。役場がやること、町民がやること、役場が町民を巻き込んで一緒にやることなど、何かしら仕掛けとなるようなことを今後考えていきたい。
- 委員： No.4の課題は以前からの課題であり、新しい総合計画で取り組むということは進んでいないということである。よって取り組む姿勢が大事であるということを行っている。
- 委員： 新しい総合計画においてしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。
- 会長： 以前からこのような課題があったのに、なぜ進まなかったのか。それを踏まえてどうしていくのか。進捗できるように、各課と調整して新しい計画に表現していただきたい。

(4) 山北町第6次総合計画基本構想(素案)について(資料4、5により事務局説明)

- 会長： 先ずは、全体を通して質問があればお聞きしたいと思うがどうか。
社人研による市町村別の人口推計数値が12月に公表されると思うが、それによって8,300人の数字は変わるのか。
- 事務局： 前回の推計方法を用いているため、大きく変わることはないと考えている。
- 会長： 第6次総合計画の実施により人口の減少幅を抑えていくことを目標としていると思うが、元々の推計値から人口を増やすことによって年齢3区分の比率も変更していると思う。推計した際の元々の高齢化比率はどのくらいか。
- 事務局： 年齢3区分の比率は、本日の資料では変更していない。政策的な調整については将来人口が決定した後に変更していく。
- 会長： 最終的に固まる時にはパーセントが変わってくるという理解でよいか。
- 事務局： その方向で調整していきたいと考えている。
- 委員： 8,300人がいいのか、元々の推計値から8,300人まで積み上げる必要があるのか。持続可能という意味では、人口が減っても山北町が発展していく議論をしていく必要があるのではないかと。
- 会長： どれ位の人数を設定するかについては後ほどの議論とさせていただきたい。
それでは議論に入りたいと思うが、第1章から第2章までのご意見はあるか。
- 委員： 6ページの山北町をとりまく課題の中で、「森林環境」は何を対象としているか。
- 事務局： 山北町は森林が多いが活用されていないという現状がある中で、ここでは総論的に、国有林、民有林全てを含んだ森林を表している。
- 委員： 保全・整備という表現でよいか。例えば、玄倉の県有林はどれくらいあるのか。どこ

からどこまでが県有林なのか。

事務局： 細かな内容については今回答できない。

委員： 大きな面積があるが、崩落により通行できなくなっている。SDGsを考えても持続可能な森林環境が必要である。環境が一番いいところへ行けなくなっている。世附方面も同じである。国・県を動かさないと絵に描いた餅になってしまう。

会長： 細かな部分でご指摘があることは分かるが、ここではある程度大枠的な課題の掲載になる。

委員： 基本計画に載ってこないといけない。

事務局： 基本計画では国や県に働きかけていくといった意味合いから、林道の整備促進といった表現になるかと思う。

委員： 道路にしても森林にしても、国や県と一緒に取り組まなければ進まない。

会長： 課題を踏まえて、別途具体的な検討が必要になってくる。町だけでできることは限られている。「連携する」や「働きかけをする」と書かれたことが、具体的に進めていけるよう基本計画にどう記載できるかが問われることになると思う。ここではあまり細かい部分を書くのは難しいと思う。

委員： 森林環境とは何を指すのか。森林を守りよりよい環境を作るための保全なのか、私有林の材木を売って収益を得るための森林保全か。県では環境を守るための保全が優先されていると感じており、森林が町の収入源になっていないと思う。そのようなことを考えた時に、森林環境の保全という言葉でくくるのは分かりにくい部分があるように感じている。

事務局： 第5次総合計画において森林を環境として捉えている部分と、木材として捉えている部分の両方があることから、ご指摘の内容も考えていきたい。

会長： 第5次総合計画では「林業の振興」という項目がある。

事務局： 森林セラピー等、森林利用の推進も実施しているところである。

委員： 世附からの林道に入れなくなっているため、小山町側から国有林の材木を搬出し、渋沢の貯木場へ搬入されている。それらは静岡県の事業者が搬入するため、静岡県材となっている現状がある。世附の材木が神奈川県材に入っていないのが残念である。

会長： 林業の発展も含めて、ここに活用という言葉を入れるかどうか、後々振り返ってみることも必要と考える。

委員： 6ページの山北町をとりまく課題は、町民レベルの課題と捉えてよいか。

事務局： その通りである。

委員： 各種アンケート等から抽出しているのか。

事務局： 町として課題と考えているものや、町民意識の中から上がってきているものも含め整理させていただいている。

委員： 12ページに記載のある教育関係や13ページに記載のある農業関係について記載がない。教育レベルが上がれば移住者が増える可能性もある。農業についても小さな面積ではあるがよりよいものを作っていく。異常気象や国際問題などで食料の輸入が難しくなっている中で、国では自給率を上げていくという話もあるので位置付けてはどうか。

事務局： 6ページに全て課題は書ききれないが、検討させていただく。

委員： ぜひ入れていただきたい。

- 会 長： 「日常の地域医療体制の確保」と「健康づくり、福祉・医療サービスの高度化、充実化」は重複している部分もあるので、調整すれば入れられるのではないかと。
- 委 員： 6 ページの山北町をとりまく課題についてだが、森林の話でもそれぞれに想いがあり、色々と考えてしまうので、できればこのページも文章化してはどうか。4 ページ、5 ページのように、一般的な課題にページを割くのであれば、減らして山北町の課題の方を増やしたほうがよいと思う。
- 会 長： 前回の会議で、山北の課題が分からないという意見が多かったことから、このような案が示されているものだが、事務局はどうか。
- 事務局： そのようなご意見であれば、2 ページで納められるよう文章でまとめたいと思う。
- 委 員： 逆に、前回の案と比べて印象的だったのは6 ページで、町民の方にとっても見やすくてよいのではないかと。この形を基本として充実させていくようにしてはどうか。文章だけより、一般の人は見やすいと思う。10 年後を見据えてこれからやっていこうというスタートラインなので、結論付けないで希望を入れていったほうがよいのではないかと。
- 会 長： 両方あってもよいのではないかと。今あるキャッチコピー的なものに2、3 行付け加えて、矢印をつけてその解決は何ページにあるというつながりを持たせる表記の仕方もある。
- 委 員： 今の意見に賛成であるが、農業に関する課題が入っていない。耕作放棄地、遊休農地は町の課題である。農業生産性についても課題として吹き出しにして欲しい。
- 委 員： 町の計画としては6 ページが重要と考えるので、ご意見の方向で整理したい。
- 会 長： 事務局で検討していただきたい。
- 委 員： 山北のお峰入りも国際的なものになる。河村城跡など文化・歴史の記載もあるとよいのではないかと。
- 委 員： 6 ページの「健康づくり、福祉・医療サービスの高度化、充実化」とあるが、10 ページの町民アンケートの設問の中には（9）に「地域医療体制の充実」となっている。高度化とは、既に実施されているものをより高度なものにしていくことだと思っているので、順を追って「整備・充実・高度化」としてはどうか。
- 会 長： 続いて、第3 章についてはいかがか。
- 委 員： 7 ページの「結果の見方」は必要があるか。
- 事務局： 前回の会議で、入れて欲しいとの意見があったため入れたものである。
- 委 員： 11 ページの凡例が小さいので大きくして欲しい。
- 会 長： 見やすさも重要である。14 ページの「町民ワークショップ」は4 名しか参加していないのか。何人の参加を想定していたのか。
- 事務局： 10 人×2 グループで20 人の参加を想定していた。5 名の申し込みのところ、4 名の参加であった。
- 会 長： 4 人では町民全体の意見とは言えないと思うが仕方ないかと思う。14 ページの町民ワークショップの下段にキーワードと書かれているが、キーワードであると抽象的すぎるため、主な意見を具体的に記載することはできないか。
- 事務局： 写真のように付箋に色々書いていただいた中で、代表的なキーワードを記載させていただいたが、具体的な内容を記載させていただく。
- 会 長： 4 名はどういう人たちか。
- 事務局： 男性30 代が3 名、女性50 代が1 名で、移住者が多かった。

- 会 長： 直接お聞きした意見は重要であるため、出された具体的な意見を記載した方がよい。
- 委 員： 付箋の写真が見えにくく、読み取れるものではないので必要か。
- 会 長： 読み取ることを目的としてないとは思う。象徴的な写真だとは思いますが、なおさらキーワードではなく内容を記載した方がよいと思う。
- 委 員： 模造紙の写真より作業風景の写真のほうがよいと思う。
- 会 長： 写真については一工夫願いたい。続いて、第4章以降についてはどうか。
- 委 員： 第4章の将来像と第8章の重点プロジェクトについて、6ページの山北町の課題との関連性がよく分からなかったので、関連性がある方がよいのではないか。
- 事務局： 将来像のフレーズが課題等と関連性のある方が分かりやすいのではないかというご意見でよろしいか。
- 委 員： そのとおり。山北町の課題をもう少し文章を加えて分かりやすくするといった話が出ていたが、将来像につながるようになると分かりやすいと思う。
- 委 員： アンケートの結果等を踏まえた中で再度整理する必要がある。
- 会 長： 将来像は抽象的になるのは仕方ないが、「持続可能で元気なまちの姿」と山北町の課題がつながって見るとよいのではないか。それが重点プロジェクトなどにつながったら分かりやすいのではないか。
- 委 員： 将来像について、アンケート結果の中で「山北がいい」と言っていた言葉に変えられないか。「持続可能なまち山北」と言ってもピンとこない。人口がもっと減っていく可能性が高いと思うが県はどう捉えているか。
- 委 員： 県全体で人口減少が始まっている。一部の自治体では増加しているが、全体の傾向としては減少している。中でも三浦半島と県西地域の減少率は高い状況である。
- 委 員： 「持続可能なまち」ではなく温かみのある言葉に、アンケートでも自然がよいと言ってくれているので自然が分かる言葉を入れてはどうか。
- 委 員： 「持続可能」は世界共通の言葉であり、山北町の計画には大きすぎる。分かりやすく親しみやすい言葉として「みんなでつくる 住み続けられる元気なまち 山来」の方がよい。まちの姿の中に農業と教育も入れて欲しい。
- 委 員： 「持続可能」としたところは、山北町がなくなることはないが、人口が減ってもやっていけるということを伝えたい。よいフレーズがあれば教えていただきたい。
- 会 長： 「住み続けたいまち」がよいのではないか。定住志向の割合が高いと人口減少を抑えられるといった考え方からも、「住み続けたいまち」のようなフレーズがよいと思う。
- 委 員： 消滅自治体ではないことを伝えたい。
- 委 員： 「元気なまち」という言葉が山北町に合うのか。「山北に住みたい」とか「自然の素晴らしい」とか、温かみのある言葉にしてはどうか。そうでないと第5章の町民憲章と合わないのではないか。
- 会 長： 参考までに町民憲章はどうやって作られたのか。町の条例か何かに位置付けられているのか。
- 委 員： 教育委員会で取り組んで位置付けたもので、生涯学習センターにも書かれている。山北町はこうありたいというものである。
- 委 員： 前回の会議では入っていない。SDGsがあつて町民憲章があるとギャップがあるが、改めて町民憲章を読んでみると、教育的な配慮が強く出ていてよいと思う。

- 委員： 将来像をもっと外に向けても分かるような表現にしてはどうか。人口減少社会の中、千葉県の流山市は人口が増えている。「都心から一番近い森のまち」というキーワードで、市外に向けてわかりやすい言葉になっていると思う。東京中央区や大阪西区など、マンションが建設されて人口が増えている自治体とは違い、流山市は市外に向けてピアーアールができています。森林とか子育てがしやすいとか、市外の人にも印象が残るようなキャッチフレーズにしてはどうか。第7章の人口フレームのところで、0～14歳が増えれば15～64歳も増える。その世代に向けて山北のよさを将来像として言語化するとよいのではないかと。
- 委員： 開成町は小さくても光輝いているまち。人口が少なくても輝いているまちにしていきたいと思う。
- 会長： 流山市はつくばエクスプレスの新駅ができたのが大きい。
- 委員： 山北町には新東名高速道路のスマートインターチェンジができることもプラスと捉えていく必要がある。
- 会長： 小田急線と御殿場線の直通電車が運行されれば効果があると思う。
- 委員： アンケートを見ると自然がよいと言っている。だが大勢の人が開成町へ出ていく。やはりどうしても利便性が勝ってしまう。限られた人は自然が素晴らしいと言う。だからこのフレーズがよいとは思わない。心が温かいとか、自然が素晴らしいとか、そういうフレーズがよいのではないかと。
- 会長： 事務局で検討いただきたい。第7章の将来人口フレームについて、8,300人が妥当かどうかについてはどうか。
- 委員： 出生率2.1で推計したとの説明であったが、県全体で令和2年が1.2、開成町は当時一番出生率が高く1.6、山北町は0.75となっている。全国でも1.3強という中で、チャレンジすぎないか。
- 事務局： 増減がない状態とするには2.1の出生率が必要となる。その数値を採用して町の人口ビジョンでは目標値を設定しているが、現状の数値とは乖離しており、町として2.1の数字をどこまで下げることが認められるかは検討となると考えている。
- 会長： これを決めるのは大変難しいことである。第5次総合計画の時には増加を目標としている。さすがにそれは難しいという認識でよいと思う。
- 委員： 岡山県の奈義町は出生率がかなり高い。子育て支援の内容に大きな違いはないはずである。上手くいっている自治体の数値を使えば手が届くのではないかと。
- 会長： 2015年の国勢調査データを元にした人口推計で、熊本県の菊陽町は大幅に人口が増える推計になっている。先ほどの流山市もそうだがベッドタウン化などが要因となっている。山北町の場合、そのようなことを望むのは現実的には難しい。また、7,090人を8,300人にするのは厳しい。どこかの数字で決めるしかないので、他自治体の出生率を踏まえて再度案を出して欲しい。
- 委員： 17ページの第5章、町民憲章を基本理念にしたのはなぜか。
- 事務局： 前回会議までは「計画の視点」にあるものを基本理念としていたが、それは基本理念ではないとのご意見をいただいた。そこで再構築し、まちづくりの根本にある町民憲章を基本理念に位置付けてはどうかと考えた。
- 委員： 町民憲章は昭和60年に制定されたものであり、今検討している総合計画は10年後を見

据えて考えるものであるため違和感がある。

会 長： 重要な指摘だと思う。町民憲章は載せるならもっと前に載せるものではないか。前回は「自立・協働・活力」が基本理念で、今回は「まちづくりのキーワード」の記載されている。

事務局： 「まちづくりのキーワード」はまだ決定していない。基本計画から分野別構想、重点プログラムへ立ち返り検討することとなっている。他に何かよいお考えがあればお願いしたい。

委 員： 町民憲章は冊子の一番前にくるようなものかなと思う。先ほどの議論の中で、将来像について「持続可能」は違うと思ったところに、次の章に町民憲章が入ってきて違和感を覚えたところである。

委 員： 将来像だが、「持続可能」は固い言葉だと思う。町民憲章にある「自然」「文化」といった言葉を取り入れたほうがよいかもしれない。

会 長： 流れからすると、載せるのであれば町民憲章は前がよいと思うので、一度前の方に入れてみて考えて欲しい。

事務局： そのように組み直してみる。

会 長： 18 ページの第6章、計画の視点にも「持続可能性」と出てくる。まだ決まってはいいないが、入れるとすれば「持続可能性」はここで説明できればよいのではないか。

委 員： 18 ページの「持続可能性」はキーワードに馴染まないのではないか。「持続可能性」は世界共通の基準で町に合わないのではないか。「柔軟性」や「機動性」は対応方法で当たり前なので別の表現の方がよい。

会 長： 3つのキーワードを「持続可能性」「柔軟性」「機動性」とした根拠は何か。

事務局： キーワードについては、湯川町長へヒアリングを行った際に、町長の考え方としてあげられた内容を3つのキーワードとして表現させていただいたものである。先ほども説明したが、立ち戻って検討することとしたい。

(5) その他

事務局： 現在、基本計画に位置付ける事業調査を実施している。ボリュームもあるので、次回の会議で全てお示しできるかは未定だが、次回会議からは基本計画の議論へと入っていくのでよろしくお願いしたい。

会 長： 町長のリーダーシップと課長を中心に深みのある内容にして欲しい。

委 員： 24 ページのオンリーワンの磨き上げについて、話題になっている山北のお峰入りや河村城跡の言い回しを検討して欲しい。「伝統文化の継承」と「文化遺産の保存・活用」などについて、教育委員会で検討してもらって欲しい。

委 員： 24 ページの「オンリーワンの磨き上げ」の内容は、オンリーワンに通じるものなのか。各課から上がってきた内容なのか。

事務局： 各課から上がってきた内容ではなく、事務局の方で抽出し記載したものである。前回の会議の中でも抽象的とのご意見を頂いており、オンリーワンにまとめるのではなく、個々の内容が特徴的な内容であることから、見せ方を工夫していく必要があると考えている。また、繰り返しになるが、第8章については、基本計画に位置付けられた事業の中から抽出し整理していくこととしたい。

委員：言葉の表現と、取り組もうとしている内容がマッチしているか、大元から考えないといけないと思う。

事務局：最終的には、各課で考えた事業が今後ここに表現されることとなる。

委員：例えば、木材の利活用とはどのような内容を考えているのか。現実的に今、木材を出す人はいないと思う。そこを分かっていると利活用はできない。表題にくる文言、タイトルと内容がマッチしていないように見える。

会長：どのように整理するかは苦労もあると思うが、適切な表現でまとめて欲しい。

委員：「幹線道路の整備」と書けば道路が整備されるわけではない。どうやったら道路ができるのか分かってて記載しているのであればよい。森林は民有林をいうのか、それとも町の森林全てをいうのであれば国有林と県有林を含めて大変な面積がある。すべてが対象というのなら観光資源としての活用や、木材としての活用につなげていくことも必要である。そのために何をすることが根底にないといけない。第5次総合計画のように、進捗状況が悪いということにつながることを懸念している。

会長：そうならないように各課で検討をお願いしたい。

4. その他

事務局：次回は10月中下旬の開催を予定している。

委員：次回の日程をここで決めて欲しい。

事務局：会長の予定はいかがか。

会長：10月26日（木）が空いている。

事務局：それでは、次回会議の開催は10月26日（木）とさせていただくので宜しくお願いしたい。

5. 閉会

以上で、山北町第3回総合計画審議会を閉会します。委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございました。

以上